

下関国際新聞

中学1・2・3年生

下関市総合政策部
国際課

Tel:083(231)9653
Email:sskokusa@city.shimonoseki.yamaguchi.jp

中学生米国派遣研修団8名元気に帰関

8月1日市内中学生代表8名を姉妹都市米国ピッツバーグ市(カルフォルニア州)に派遣。5泊のホームステイを終え7日に元気に帰関しました!

次代を担う小さな国際人育成に向けて

下関市は、国際化に対応できる人材育成のため、毎年中学生をピッツバーグ市へ派遣しています。団員は、市長等表敬訪問、警察署、総領事館等を視察、現地生徒とのスポーツ交流やホームステイを通じ、本場の英語や米文化を直接肌で体験しました。

国際親善大使に任命

7月25日、中尾下関市長から一人ひとりに国際親善大使の任命書が手渡されました。各自、元気に研修への意気込みを表明しました。

いざ、ピッツバーグへ

新下関駅で先生や家族に見送られた後、福岡空港を経て成田空港を出発。日付変更線を越え、約一〇時間サンフランシスコ空港に着。緊張のなか初めての入国審査をクリア後、在サンフランシスコ総領事館訪問。現地情報収集、日本人



事前研修
団員は、7月初旬から出発まで4回の事前研修を通じて、現地で調べる各自の課題(学校生活、いじめ、国技や食文化等)を整理し、質問を英語でまとめるとともに、ホームステイの注意事項や郷土下関についても学びました。

保護、旅券・査証交付など領事館の重要な役割について学びました。原田首席領事さんの「姉妹都市のような顔の見える交流は国との交流の基礎として重要なので積極的に支援したい」との言葉が心に残りま



後、バスでピッツバーグへ。時差と旅の疲れがピークの中、ホストファミリーと対面。団員は緊張の面持ちで家族とともに一路、我が家へ。

ピッツバーグ?

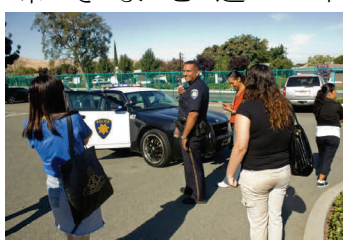
人口：8万7千人・面積：40km²
姉妹都市締結 1998年12月18日・アメリカ西海岸サンフランシスコの東約60km



州都サクラメントへ



都市ピッツバーグ探検。まず警察署を訪問。約100台設置している防犯カメラ室、留置場の視察や護送車、パトカー運転などを体験しました。その後、市長を表敬訪問。市長さんから歓迎の挨拶を受けるとともに、市の状況や市議会などについて説明を受けました。その後、下関市寄贈の「ふく銅像」視察。続いて、建設中のマーチンルーサー中学、ブランクダイヤモンド高校を視察。中学校は、



翌日は、州都サクラメント市視察。まずはカルフォルニア州の議事堂。前州知事はあのシュワルツネッガーさん。上院と下院の役割や違いについて学びました。上院のカーペットの色は赤。下院は緑。次は鉄道博物館。西部劇に出てきそうな巨大な機関車、昔懐かしい寝台車、鉄道工事に携わった日本人の食器類も展示されていました。昼は、リバーサイドのレストランで食事。米国のウェイトレスやウエーターは大変陽気で芸達者。音楽に合わせて踊りだしました。食後オールドサクラメントの街を散歩。アイスクリームのデザートをいただきホームステイ先へカムバック。

これまで、米国研修が夏休みにあたるため、地元の子どもたちと直に交流する機会が少ない。この意見を受け、今回目玉としてスポーツ交流を実施。市役所近くのグラウンドでバスケット交流を。はじめシャイだった下関チームは徐々にヒートアップ。汗、声援、笑顔いっぱい交流した。そして、



保護、旅券・査証交付など領事館の重要な役割について学びました。原田首席領事さんの「姉妹都市のような顔の見える交流は国との交流の基礎として重要なので積極的に支援したい」との言葉が心に残りま



これまで、米国研修が夏休みにあたるため、地元の子どもたちと直に交流する機会が少ない。この意見を受け、今回目玉としてスポーツ交流を実施。市役所近くのグラウンドでバスケット交流を。はじめシャイだった下関チームは徐々にヒートアップ。汗、声援、笑顔いっぱい交流した。そして、



これまで、米国研修が夏休みにあたるため、地元の子どもたちと直に交流する機会が少ない。この意見を受け、今回目玉としてスポーツ交流を実施。市役所近くのグラウンドでバスケット交流を。はじめシャイだった下関チームは徐々にヒートアップ。汗、声援、笑顔いっぱい交流した。そして、

6日目午前7時、ピッツバーグ市役所に集合。楽しかった研修も終わり、帰関するときに涙の別れもありました。大変温かいおもてなしありがとうございました。

さよならピッツバーグ

サンフランシスコ散策



4日目土曜日の休日。スクールのバスでサンフランシスコ散策。当日は霧が出て大変寒い日。まずコイトタワーでサンフランシスコを一望、あいにくの霧で金門橋は見えませんが、有名なピア39やケーブルカーなどを見ることができました。その後、フェリーターミナルのバザールを見学。チーズ、果物、生活雑貨が豊富。朝から大変な人出。カフェで食事したあとはピア39でショッピング。

ホストファミリーとの休日



いよいよ研修最終日(5日目)ホストファミリーのエバンス邸で恒例のプールパーティーとバーベキューパーティー。プールではホストファミリーの子どもたちと歓声をあげて交流。その後、特大の肉、デザートアイスクリームやスイカに舌つづみを打ち、とても楽しく記憶に残る一日となりました。

テン・ボイス (団員の声)

●この米国派遣研修は大変だけど必ず自分のためになると今回行ってみてすごく思いました。だからこの研修で学んだことを将来生かせるようにしたいです。(夢が丘中M.N)

●ホストファミリーがクラムチャウダーを作ってくれました。コーンとえびが入ってとても美味しかったです。(長府中I.S)

●今回の研修で学んだことは、今後とても自分のために生かしていけるとおもいます。将来の夢へ近づけたのでよかったです。(夢が丘中M.T)

●この研修で私は貴重な体験を得ることができました。学校生活や社会問題等について語り合うことができました。小さなdiplomat(外交官)として今後も下関との架け橋になれば嬉しいです。(菊川中S.M)

●アメリカでは沢山の人がとに支えられました。たとえ国が違っていても、人は皆つながることができる再認識しました。(豊田中C.M)

●私は、アメリカに行ってきた皆さんの考えを感じました。そして日本の良い所もたくさん知ることができました。もっと英語を勉強してまた行きたいです。(夢が丘中I.F)

●私の夢が1つ叶った。でも、これを踏みに、またチャレンジしたい。何もかもが大きすぎ(笑)アメリカを肌で感じる事ができた。(長府中M.U)

●自分の研修テーマである国技について色々聞けたので良かったです。またバスケットをみんなで楽しかったです。(豊洋中A.K)

○ピッツバーグの人達の温かさに触れ、様々な経験や交流を通じて、多くのことを学び感じることのできた5日間でした。かけがえのない思い出として団員一人ひとりの心に残ることと思います。

(引率：島田修司)

○私自身は初めての渡米。緊張の連続でした。しかし全員無事帰関することができ安堵するとともに、一回り大きく成長した団員を見て嬉しく思いました。ピッツバーグの皆さん、領事館、先生、保護者や後方支援の方々、そして何より元気で研修をやり通した団員のお陰です。ありがとうございます。

(団長：河原明彦)